

# 令和元年度 メディカルサポート部バスケットボール競技班 活動報告

## 1. メディカルサポート活動

### 1) 実施大会 (表 1)

下記 4 大会の 3 回戦以上となる全試合に参加した。本年度は県総体の日程が昨年度より 1 日増加したため、メディカルサポートも 3 日間の活動に増加した。

第 73 回関東高等学校バスケットボール選手権大会県予選会 (県総体)	: 3 日間 48 試合
第 72 回全国高等学校総合体育大会県予選会 (インターハイ)	: 3 日間 30 試合
第 50 回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会県予選会 (選抜大会)	: 4 日間 46 試合
第 30 回関東高等学校バスケットボール新人大会県予選会 (新人大会)	: 4 日間 64 試合

### 2) 活動内容

#### (1) 救護活動

試合中の救護活動として、スタッフがコート脇にて待機し、選手の傷害に対する応急処置などを行った。また、円滑に救護活動を実施する為の準備として、各会場にて AED や担架の保管場所を確認し、実際に担架を用いて搬送ルートのシミュレーションを行った。

#### (2) コンディショニング

会場の一角にブースを設営し、試合前後の選手・審判からのテーピング等のコンディショニング依頼に対応した。

### 3) 参加スタッフ数 (表 1)

メインスタッフは延べ 35 名 (実数 11 名)、アシスタントスタッフは延べ 33 名 (実数 19 名) であった。

### 4) 対応件数 (表 1)

選手の対応件数は計 78 件であり、性別毎の内訳は男子 45 件、女子 33 件であった。

### 5) 対応回数 (表 1)

選手の対応回数は計 189 回であった。

表 1 メディカルサポート概要

	日数 (日)	試合数 (試合)	スタッフ数 (名) メイン / アシスタント	対応件数 (件)	対応回数 (回)
県総体	3	48	8 / 3	25	50
インターハイ	3	30	8 / 10	10	26
選抜大会	4	46	9 / 11	13	29
新人大会	4	60	10 / 9	30	84
計	14	184	35 / 33	78	189

6) 傷害部位と傷害内容 (表 2)

傷害部位として足関節が 21 件、下腿部が 13 件、大腿部が 10 件、膝関節が 9 件と多くみられ、また下肢の傷害が全体の約 72% を占めていた。傷害内容として関節構成体の損傷が 30 件、筋痙攣が 12 件、筋・腱損傷が 10 件、打撲が 9 件と多くみられた。傷害部位と傷害内容の組み合わせで特に多かったものは、足関節の関節構成体損傷が 14 件、下腿部の筋痙攣が 10 件、膝関節の関節構成体損傷が 7 件であった。また、本年度は脳震盪疑いに対する試合中の対応が 4 件存在した。

表 2 実施大会の傷害部位別件数

	頭部	顔面	頸部	胸腹部	腰部	肩関節	前腕部	手関節	手部	手指	大腿部	膝関節	下腿部	足関節	足部	足趾	計
脳震盪疑い	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
打撲	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	4	1	1	-	-	-	9
出血	-	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	3
骨折	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	1	-	4
筋痙攣	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	10	-	-	-	12
筋・腱損傷	-	-	1	-	-	-	-	-	2	1	-	-	2	4	-	-	10
(A)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	7	-	14	-	1	30
その他	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	1	-	6
計	5	1	1	1	1	1	2	2	2	6	10	9	13	21	2	1	78

(A) : 関節構成体損傷

7). メディカルサポートの対応内容 (表 3)

県内大会における対応内容の内訳は多い順に、傷害確認・対処方法の指導 56 回、テーピング 55 回、アイシング 32 回、ストレッチ 18 回、徒手療法 13 回、その他 10 回、止血処置 4 回、救急搬送 1 回であった。

表 3 メディカルサポートの対応内容

	テーピング	ストレッチ	アイシング	止血処置	徒手療法	(A)	救急搬送	その他	計
県総体	14	10	8	2	1	13	0	2	50
インターハイ	7	4	6	1	2	4	0	2	26
選抜大会	8	2	5	0	2	7	1	4	29
新人大会	26	2	13	1	8	32	0	2	84
計 (回)	55	18	32	4	13	56	1	10	189

(A) : 傷害確認・対処方法の指導

## 2. 教育・指導体制

### 1) メディカルサポートにおいて

前年度より継続し、本年度も会場にて空き時間を利用して、メインスタッフからアシスタントに向けて対応に関する指導を実施した。内容としては、脳震盪疑いの選手への対応フローチャート表の確認や筋痙攣や打撲など対応の多かった症例を用いて病態や対応の注意点などの指導を行った。また、会場にて担架を使用して実際に緊急搬送時の動線確認や AED の保管場所を確認する等、救護活動を円滑に行う準備を行った。これらはアシスタントに対しては救護活動やコンディショニングに関するシミュレーションを通じて準備してもらうことを目的とし、メインスタッフに対しては指導を通じて活動内容について再確認を促すことや経験の少ないアシスタントの育成に積極的に関与してもらうことを目的とした。

### 2) 定期勉強会

前年度より継続し、各大会前に定期勉強会を計 4 回開催した。内容としてテーピングの実技練習や、脳震盪疑いへの対応、担架を用いた救急搬送法などスポーツ現場に即した実践的な知識や対応について学んでもらうことを目的とした。また、足関節捻挫や脳震盪疑いのケースを例として、バスケメディカルサポート現場での評価・対応を参加者・講師を交えたグループディスカッションや対応シミュレーションを行うことで参加者の知識・経験をアウトプットする機会や、フィードバックを受ける機会を設けることで、平日頃からの自己研鑽に繋げてもらうことや、選手への実際の対応に活かしてもらうことも目的とした。

#### (1) 県総体前勉強会

【日時】令和元年 5 月 8 日（水）19 時 30 分～21 時 30 分

【会場】高崎健康福祉大学 3 号館 1 階 運動学実習室

【内容】バスケメディカルサポート概要（講義）、足関節のテーピング（実技）、懇親会

【参加人数】計 18 名（※PT：13 名で、その内県総体への参加者：3 名。学生：5 名）

#### (2) インターハイ前勉強会

【日時】令和元年 6 月 5 日（水）19 時 30 分～21 時 30 分

【会場】高崎健康福祉大学 3 号館 1 階 運動学実習室

【内容】総体予選のメディカルサポート報告（講義）、サポート現場での救護について（脳震盪疑いに対する救護・救急搬送にあたっての搬送法など実技）、懇親会

【参加人数】計 17 名（※PT：13 名で、その内インターハイへの参加者：7 名。学生：4 名）

#### (3) ウインターカップ前勉強会

【日時】令和元年 10 月 8 日（火）19 時 30 分～21 時 30 分

【会場】高崎健康福祉大学 3 号館 1 階 運動学実習室

【内容】バスケメディカルサポート現場での評価・対応（講義・グループディスカッション）

【参加人数】20 名（※PT：14 名で、その内ウインターカップへの参加者：7 名。学生：6 名）

#### (4) 新人大会前勉強会

【日時】 令和2年1月6日(月) 19時30分～21時30分

【会場】 高崎健康福祉大学3号館1階 運動学実習室

【内容】 バスケメディカルサポート現場での応急処置について(脳震盪疑いに対するグループディスカッション・対応シミュレーション等の実技)、懇親会

【参加人数】 10名(※PT:6名で、その内新人大会への参加者:4名。学生:4名)

### 3. まとめ

令和元年度の群馬県高校バスケットボールメディカルサポートは、昨年度より継続して各大会での3・4回戦以降のサポート活動を実施した。本年度も3・4回戦の時点ではトレーナーが帯同していないチームが多く、またベスト4以上のチームでもトレーナーが帯同していないチームが男女ともに存在した。そのため、バスケメディカルサポートとしては試合前の選手のコンディショニングや、試合中に発生した傷害への対応を実施するために、来年度も継続して3・4回戦以降の試合で可能な限りサポート活動を実施していきたい。

以前から継続した取り組みとして、脳震盪の疑いがある場合はバスケットボール班で作成したフローチャート表や対応シート表を用いて対応した点が挙げられる。本年度は4件の脳震盪疑いの対応があり、実際にこれらを使用し対応を行った。また、昨年度より継続して実施しているAEDなどの保管場所確認や搬送ルートの確認作業、対応数の多い症例に関するアシスタントへの指導に関しても継続していきたい。さらには来年度の展望として、スポーツ現場における救護活動を行うにあたり作成が推奨されつつあるEmergency Action Planに関して、脳震盪など重篤な傷害発生時に円滑に救護活動が実施できるよう、大会運営本部や審判部、施設管理の方々とも協議して作成できるように活動していきたい。

本年度も定期勉強会を各大会前に全4回開催した。勉強会では、対応数の多い足関節へのテーピング実技練習の他に、脳震盪といった試合中に起こりうる傷害についての講義や、実際に担架などを用いた救急搬送法の実技も実施した。またウインターカップ・新人大会前の勉強会では足関節捻挫や脳震盪疑いを症例として、バスケメディカルサポート現場での評価・対応に関してグループディスカッションやシミュレーションを行った。各大会前にこれらの内容の勉強会を行ったのは、サポート参加者が勉強会を通じてメディカルサポート活動の準備を行うという目的の他、知識や技術に関して平日頃から継続的に準備を行う必要性を感じてもらいたいという意図が存在した。各勉強会にて直後の大会スタッフの参加がみられ、特に第2～4回目の勉強会では参加者の約半数が大会スタッフとしても参加しており、一定の成果は挙げられたのではないかと考える。来年度も大会前には可能な限りで定期勉強会を開催するとともに、その場において新しい医学的知見の紹介や、現場で起こり得る傷害に対する知識・対処方法などについてスタッフ間で情報・技術の共有を図りたいと考える。

来年度も今年度同様、県内大会における3回戦以降のサポート活動を実施するとともに、各大会前に定期勉強会を開催し、メディカルサポートの更なる充実を図っていく必要があると考える。また、今後も脳震盪などの試合中に生じる外傷に関して定期勉強会やサポート現場などを利用し、スタッフに対して継続して知識や対応方法の周知を図りたいと考える。更には、Emergency Action Planの作成を通じて、迅速な救護活動を実施できる環境作りにも取り組んでいきたいと考える。